



[撮影場所;小倉北区内]

ニレ科 ケヤキ (櫟) 落葉広葉高木 樹高20~25m

北九州市で街路樹として一番多く用いられている。樹形の美しさ、緑陰や景観向上効果、育てやすさ、新緑、繁茂期、紅葉時、冬木立、どの時期も堂々たる存在感、また繊細な美しさがある。移植容易で生長も速いが、大気汚染にやや弱い。(以下参考として:ニレ科の仲間では身近なものとしてエノキ、ムクノキ、アキニレがある。近年アキニレが街路樹として用いられるケースが増えている。エノキ、ムクノキが街路樹とされるケースはない。しかしエノキは一里塚のシンボル樹として、またムクノキは神社境内などで大木が見られ、それぞれの古来からの活かされ方がある。)



単独でも充分な緑陰をつくるが、列植群植では更に豊かな緑陰が形成される。新緑、紅葉、冬木立、単独でも列植でも美しく親しまれる樹木である。



ケヤキは古来高級建築材として重用されてきた。柱、梁、板として利用されている建築物の多くは文化的存在となっている。故に将来の成育を予想したゆとりある空間に植えたいものである。↑この事例は幹周2mクラス。既に立派な遺産になっている。

街路樹としての代表的路線

門司区 門司苧田線 門司区~小倉南区 幹線5号線 八幡東区 東田大通公園、西本町帆柱2号線、枝光尾倉1号線  
小倉北区 城内大手町1号線、国道199号浅野バイパス 八幡西区 浅川214号線 若松区 県道若松芦屋福岡線